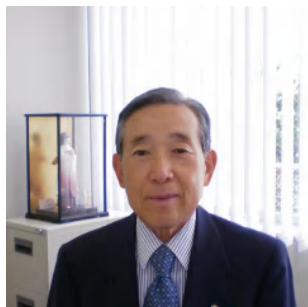


# KOKUSAI

★発行：国際運輸株式会社★

VOL.16

## 『会社の発展のために』



会長

前田一彦

先日テレビでユニクロの社長のインタビューが放映されていました。その中で強調されていた事は会社の運営について社員が経営者になれということでした。実質的に経営者という意味ではなく経営者の気持ちで仕事に当たれと言う事です。誰でも真面目に職責を果していると思いますが、今皆さんが経営者になったとして改めて自分の仕事をチェックしてみてください。やはり視点は変わってくると思います。会社が健全に運営され発展させる原動力は何でしょうか。

色々考えられますが社員の“やる気”も大事なことの一つです。人間が本気になって努力すればたいはいの事は遣り遂げることができると思います。人間の能力は多彩です。総合的な能力はそんなに変わるものではありません。自分で選んだ仕事です。目的を明確にし努力を重ねれば他の人に負けることはありません。但し会社は組織で仕事をします。組織のまとまりで会社の経営に大きな差が生じます。

意思の疎通を良くし助け合いながら本来の目的に向かって努力を重ねることで成果も上がります。会社も地域社会の中の一つの存在として社会的な義務、社会に対する奉仕等は当然のことであり愛のある経営を理念とすべきでしょう。社内的には運命共同体の一員として、皆さんそれぞれが自分の幸せを求めると同じくらい同僚や部下の皆さんの幸せを考えることが出来るならば、職場の雰囲気も素晴らしいものになるでしょう。

仮に仕事にミスがあっても是正の行動を正しく、早く取ることで学習したことになり、より大きな成果につながります。個人的にあげつらうことなく、陰口や噂などは絶対にしてはいけない事です。社内の種々の情報なども外部に洩れる事があれば会社の信用に大きな傷がつく様なことになりかねません。

人は石垣、人は城。私たち一人一人が立派な城を築いていきましょう。私たち自身の城なのですから。皆さんのご健闘を期待しています。



# 『感動的アイスコーヒー』

「百年に一度の不況」、この言葉がメディアで取り沙汰されるようになって早一年ほどが過ぎようとしています。しかし、「百年に一度」と言われても、百年前の日本はまだ明治!! 世界的に見ても産業革命が起こってからそんなに時間の経っていない時代に世界的不況になんてなれるほど、まだグローバルな経済は発展していなかったと思われま

す。勿論これは「滅多にない」の比喩的表現なのでしょうが、ちょっと大袈裟と言わざるを得ませんね。むしろ「百年に一度なんだから仕方がない」みたいな、言い訳ともとれるセリフに聞こえてきます。

なにしろ人類は今やこれだけ地球の環境を破壊し、資源を貪り(むさぼり)、挙句の果てはマネーゲームで空想した泡銭(あぶくぜに)で好き勝手をしてきたのですから、構造的な不況になるのは当たり前でしょう? 逆に今更騒ぐのはおかしいと思います。

「起きて半畳、寝て一畳」、人類は今まさにこの物質欲に対する戒めを、心に刻み直すべき時期に来ている事を確信する今日この頃です。

なんて…今回は久々のHP更新で、気合が入り過ぎて堅苦しい書き出しをしてしまいました(笑)

しかし、では現実にこの厳しい時代をどのように生き残ればいいのか?

多分明確な答えを持った人などいないと思いますし、もしそんな人がいたら怪しい宗教関係者か不穏な政治団体か? コリヤヤバイ、ヤバイ!?

でも時代がどう変われども人と人との繋がりのある商売を続ける以上、間違いなく言えるのは「お客様に対して最善を尽くす」って事ではないでしょうか。「最善とは?」の問いに対しては、自分がお客様の立場に立った時にしてほしい事と答えておきましょう。しかし、それはいわゆる「値引き」や「特殊なサービス」ではありません。

一番大切なのは、お客様の為に一生懸命になっている我々の「姿勢」です。

良い例として、最近私が会社で毎朝飲んでいる「感動的アイスコーヒー」を紹介します。生来「超」が付くほど暑がりの私は、平均気温が20度を超えると、朝のコーヒーをアイスに替えてもらいますが、これがとても美味しく冷たさも長持ちするのです。

秘訣は事前にマグカップごと冷凍庫でキンキンに冷やしておき、出す直前に「コーヒーそのものを凍らせた氷」を入れてある点です。そこまでしなくても私は決して文句は言わないのに毎日やってくれています。

普通の氷をたくさん入れれば冷たくはなりますが、解けると薄まって美味しくありません。飲んでいる途中で打ち合わせが入って、暫くして机に戻っても残ったコーヒーが冷たいまま最後まで美味しく飲める工夫をしてくれる人の「姿勢」に私は日々感動しています。

私達がお客様からの期待や要望に常にこのレベルで応える事が出来れば、不況の度合いがたとえ何百年に一度のものであっても関係ありません。だってお客様は我が社にしか仕事を頼みたくなくなっているからです。国際運輸ならではの、お客様に感動を与えられる「姿勢」を作り上げるべく日々精進しましょう。



社長

前田和隆





常務

## 中園嘉臣

# 『感謝の気持ち』

世の中不景気な話ばかりです。昨年の北京オリンピックを境に、リーマンの破綻、原油の高騰、サブプライムローンに端を発した株価の暴落等々上げればきりがありません。佐世保市内においても大手・中堅を問わず倒産の話を耳にします。当社も類にもれず、原油の高騰にはここ数年泣かされ続けてきました。

業界を問わず各社苦悩の日々があると思います。売上を確保すべく動く営業にも限度があり、賃金カット迄実施している会社は多々耳にします。最悪、人員削減をしたり、会社をたたむところもあると聞きます。

当社についても、他社と同じ苦しみの中から一早く手を打ってきました。コスト面でのこともさる事ながら、営業の方向性を顧客中心（依頼された仕事を断らない、顧客のニーズに応える）に変える。運送会社として出来る当たり前の事（荷物を事故なく確実にお届けする、服装、言葉使い、身だしなみに注意する）を当たり前にやる、を続けて来た事でお客様からの信用を少しずつ得て来たのではないかと思います。

過日、クレームで断られたと思っていた、大村の食品会社から直近では直接注文を頂きました。又、他社の方が単価が安いのに関わらず、当社を「間違いのない会社」と思って頂き、受注を頂いている会社が数社あります。有り難い話です。過去に於いては自社を自分たちが評価していたのかも知れません。お褒めの言葉を聞いた事はあまりなかったのが、確実に増えてきています。

先日お客様から、当社のお茶は非常においしいので、楽しみという言葉を頂きました。有り難い話です。裏話ですが、お客様に出す湯呑みは必ず温めてからお茶を出し、昼食前、夕方のお客様にはお茶を少なめに入れているとの事。ほんの気持ちばかりの気配りが、今わずかながらの評価・実績としてついて来ているような気がします。

不景気対策に特効薬はないと思います。社員一人一人がお客様の事や同僚、先輩、部下のことを思いやる事が、いい結果に結びついて行くと確信しています。又、私自身も感謝の気持ちを忘れず、人と接したいと念じています。



あるとき不意に、以前に読んだ、道元禅師の一文を思い出しました。道元禅師とは日本曹洞宗の開祖で、最近では中村勘太郎さん主演で映画にもなりました。ところで、その一文ですが、「山は流れて、水は流れず」。山が流れて、水が流れない。逆ですよ。しかし、言葉の真意はこうです。水や山は、やれ流れているの、流れていないのと言われたって、人間の考え方の影響を受けず、自分の本来のあり方を、あるがままに生きている。こういう自然の姿の在り方を見て学びなさいということなのですが、自分がいま向かい合っている人でさえ、あるがままに生きているのです。理解できないときは、そのまま受け止めてみてはどうだろうか。

もう一つは「流れに身をまかせてみる。人の舟に乗れるときのごとし。」であります。

実際に、口論するにも相手がいるわけですが、他人が自分の考え通りであると、その人を認め、他人が自分の考えと違うと、話がわからない奴として、除けものにしたり、敵のように思い始めます。しかし、所詮、会社という舟に乗っているのには違いはありません。もしこの舟がなくなってしまうたら、どうでありましょうか。今年の二月から当社では部門の編成を行って、統括業務部を発足いたしました。仕事に追いかけてはいけませんが、なかなか追いつかない。私は充実したとは言えない毎日をしばらく過ごしておりました。これではいけないと感じながらも、慣れない業務の内容で、なかなか自分を急に変えられずに、自分の考えを押し通すことが使命だと思って仕事をしておりました。そうした時に思い出したこの禅の言葉は、私の心にじわりとしみるものがありました。自分の価値観だけにとらわれず、他人の身に立ってものごとを考えてみるようにする。こういう考えが大切なんだと思うようになりました。人数分の思いや考えをひと束にする器量までは持ち合わせておりませんが、調和のとれた組織を力を合わせて創っていかねばと願っております。



統括業務部部長  
萩坂貴徳



統括業務部次長  
榑崎昇

ニュースで新型インフルエンザが報道され、国内で確認されると段々大騒ぎになりだしたのが二ヶ月程前。

ある日、自宅へ帰宅した時の事です。家内が地元でインフルエンザの疑いのある人が出たらしいとの噂を聞き、夜のローカルニュースでは確認中と流れていました。我が家でも慌ててマスクを探しに町内を廻りましたが、どこの店も品切れ状態。買うことはできませんでした。このころからマスクは品薄になりましたが、数日後たまたま入ったドラッグストアに入荷したばかりのマスクを見つけ購入でき、これでひと安心。ん、ここで何か変だなと思ったのです。マスクが買えないと不安になり、マスクが買えれば安心した自分がいたということです。現にマスクが購入出来た後は、新型インフルエンザの事があまり気にならなくなった様に思います。身近な所に感染した方は誰も無く、ただ噂と品不足に振り回されていた自分。まわりもどうでしょうか。最近では新型インフルエンザの事を報道することも少なくなり、あってもそう反応することも無くなりました。マスク売り場も従来のように商品が揃い、何事もなかったかの様です。

私達は何かあると、どっと騒ぎ、少し時間が経つと、すっと忘れる。“人の噂も七十五日”そういう民族なのでしょうか。今回の“騒動する自分”をしっかり見つめ“騒動する自分”の行動を抑制できる様に覚えておきたいと思います。ただ、皆さん。新型インフルエンザは湿気の多い時期は感染しにくいそうです。夏から秋以降、また騒動が始まるかもしれませんよ。最後に我が家には、騒動の副産物「マスク」が備蓄されています。みなさんのお宅はどうですか？

# 『個人差』

子供さんをお持ちの方ならば聞いたことがあるかも知れませんが、男の子と女の子では言葉の発達に違いがあるのは皆さんご存知の事だと思います（もちろん個人差はありますが）。

よく、男の子は言葉の出てくるのが遅いとか女の子は早く話すようになると言いますが何故なのでしょう？

今回は私の聞いた話で、なるほどと思える話を書いてみたいと思います。

まずは男の子の場合ですが、自分のお子さんが言葉がなかなか出てこないで心配になった事がある方もおられるのではないのでしょうか？しかし、遅く言葉が発達する分、言語とは別の部分の脳が発達するとの事なのです。それは空間を認識したりする能力とのことでした。

なるほど確かに多くの男性の場合、地図を見てすぐに理解できたり、方向音痴の方もすくないなと思いました。逆に女の子では地図を見ても分からなかったり、方向音痴の方も多いのではないのでしょうか？しかし、それはそれで言葉が早い分言語系に強いそうです。

人間の脳の80%は三才までに発達するそうでこの間の環境で大きく変わるとの事です。

この話を聞いて以前は他人を見て「何故、あの人はこんな事もできないのだろう？」とイライラすることもあったのですが、最近は「もしかするとそういう部分の能力が十分発達出来ないまま成長したのかな？」（もちろん差別的な意味ではなく）と思えるようになりました。

また、そう思えるようになったことで他の人が出来る事が出来なくともしょうがないのかなと思えるようになりました。

しかし、人間とはよく出来た生き物のようでそれを補うための脳もあるそうです。

他人に出来て自分に出来なくてもその後の努力次第で出来るようになるとの事です。

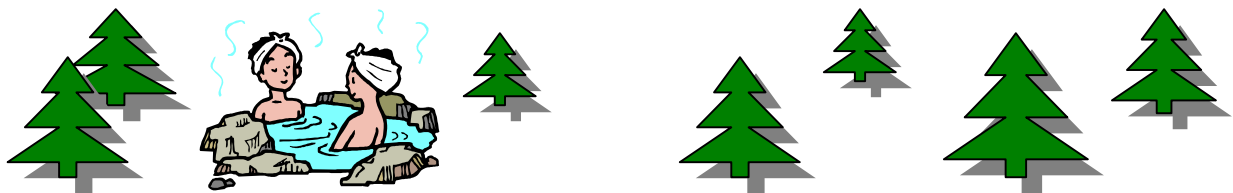
もちろんスタート時の能力も人それぞれなので同じ努力をしても人それぞれ違いが出てくるとは思いますが、各個人に出来る努力をし、少しずつでも生まれてからの能力の差を埋めていくように心がけて行けばおのずと良い結果がついてくるのではないかと思います。

自分を基準に他人を見れば不満な面も見えてくるかも知れませんが本人は自分なりに今、出来ることを一生懸命にしているのかもしれない。

仮にそれが他の人の80%しか出来ていなくとも本人なりに一生懸命していれば、それを評価してやりたいと私は思います。



統括業務部次長  
松尾隆志





運輸部

## 内橋紗愛

七月も半ばになり、これから夏にかけ暑さも厳しくなります。室内と外との気温差があり、皆様体調には気をつけていただきたいと思います。

私は国際運輸に入社してまもなく十ヶ月になります。周囲の先輩方に教わりながら、少しずつ事務も覚えてきました。まだまだ未熟な点が沢山あり、ご迷惑をおかけすることも多々ありますが、覚えたことをきちんとできるよう、努めていきたいと思っています。

ところで、先日読んだ本にこのようなことが書いてありました。

「井の中の蛙、大海を知らず」という言葉は皆様ご存知だと思います。これは、小さな世界、狭い環境だけしか知らず「お山の大将」ではダメだよ。という意味だと私は思っていました。実はこの言葉には下の句があったのです。

「井の中の蛙、大海を知らず。されど、天の高さを知る。地のぬくもりを知る。」

天の高さとは、自分の目標や希望であり、地のぬくもりとは、身近な家族や仲間がいて、それで今の自分がある。井の中の蛙だって、狭い池にいたって空の高さを知ることを知ることができるし、周りに対する感謝の気持ちを理解できるんだ。と私は解釈しましたが、皆様はいかがでしょうか……。

最後になりましたが、運輸の乗務員さん、いつも笑わせてくれてありがとうございます。今日も安全運転でお願いします！



先日久しぶりに学生時代の友人数名と食事に行きました。元より人間関係においては非常に受動的な私にとって、友人からの誘いの連絡は嬉しいものでした。

社会人になって共通点のないそれぞれの生活が始まったことにより自然と連絡を取らなくなった私たちは、お互いのことを考える時間が稀有になります。就職や家庭を持つことにより、考えの中心には自分や自分と密接して関係する人や環境などの、自分にとって切り離せない事柄だけが残り、多くの時間を共有してきた仲間や友人のことすら無意識に“切り離してよいこと”として頭の中から消えてしまいがちです。久しぶりに友人と会うといつも、そのことや自分の行動力のなさを反省します。それと同時に、友人と過ごす時間の大切さにも気付かされます。社会に出ると、それまで属していたカテゴリーから脱し、年齢も経験も価値観も自分とは異なる多くの

人々と接することが増えます。新しい環境は多かれ少なかれ誰しもの身にストレスを与えうるもので、私生活の充実が仕事に臨む際のモチベーション向上に繋がると考える私は、休日のほとんどをただ休むということに充てることが多く、月曜日になると休日の使い方を後悔してしまうことが多々あります。今回、友人と会っていろんな話をしたり、久々に同じ時間を共有できたことで、休日の人と会うことがもたらす精神的なリラックス効果を実感しました。ただ休むだけでは体力面での回復は得られても、精神面での回復はそう簡単に得られるものではないからです。日曜日の最後に「明日から一週間頑張ろう」と思えるか否かは勿論自分次第ではありますが、友人や他人と触れ合うことによって気持ちを新たにしたり、考えの幅が広がったりするのは確かなことだと思います。

自分の人生における社会人生活の中で可能な限り視野を広げるためにも、これからはいろんな人と会い、様々な事を吸収していきたいです。



梱包部

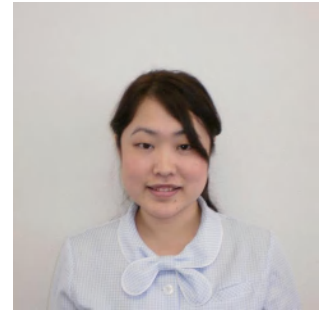
## 福田奈津樹



昨年 11 月、派遣社員としてお世話になり、契約終了後、縁あって国際運輸に入社しました。総務と経理を担当し、早くも半年以上経過しました。以前も事務職に就いていましたが、同じ職種であっても初めて行う仕事が多く、毎日が勉強の連続でした。半年経った今、日常業務には慣れてきましたが、勉強することは山積みです。失敗も多々ありますが、いろんな方々からのアドバイスを頂きながら日々業務に取り組んでいます。

さて、今回は私の好きな言葉を紹介させて頂きたいと思います。「成功者は 成功するまで失敗した者である」という言葉です。これは、私が以前失敗を連続し落ち込んでいたときに、ある本の中で見かけました。この言葉によって、“失敗すること”

について考えを改めるきっかけになり、自分の失敗に向き合うことができるようになりました。わざと失敗をする人はいません。同じように失敗をしない人がいるとも思えません。そう考えると、失敗したことを悔やむより失敗した後どう対処すべきかが大事な点だと思います。そこで、私は失敗してしまった時には、何故失敗したのか、何が悪かったのか、どうすれば防げるのか等を自分なりにまとめ、その改善策を実践します。その後、簡単にですが内容や結果等をメモに残すようにしています。理由は時間が経った後でも振り返ることができるからです。まず考え出したことを実践し、それも失敗であればまた他の方法を考えればいい。そしてまたメモをする。それを繰り返すことで失敗を回避する力も備わってくると思います。仕事以外の失敗もたくさんあり、過去の記録を振り返ると、思わず恥ずかしくなることもありますが、それ以上に普段はあまり気付かない自分の成長に気付かされます。その成長を自分自身で感じ、そして最終的には“成功者”へと近づいていくことが私の理想です。



総務部

和田真由美



## \*\*\*良寛と放蕩者の馬之助\*\*\*

皆さんよくご存知の良寛さんのふるさは、越後の出雲崎にある。

地元の名主だった父親の死後、長男だった良寛は家督を弟の由之に譲り、仏門に入る。二十二歳でふるさとを離れ、諸国をまわって厳しい修行を重ねたあと、四十七歳で出雲崎の小さな庵に入って定住した。

当時、良寛はすでに高僧の一人だったが、つきあう相手は武士とか僧侶といった知識人といわれる人たちではなく、農民や子供たちだった。知識をひけらかす者を嫌い、素朴に位している人たちを愛したからである。

さて、弟の由之には馬之助という息子がいた。良寛の甥にあたる。これが放蕩に身を持ち崩して、その母親に泣きつかれて、良寛は意見をしに出かけた。

良寛は三日三晩滞在したが、一向に馬之助にお説教をする気配がない。とうとうそのまま暇を告げる事になった。出発間際、縁台に座った良寛は馬之助を呼んでいった。

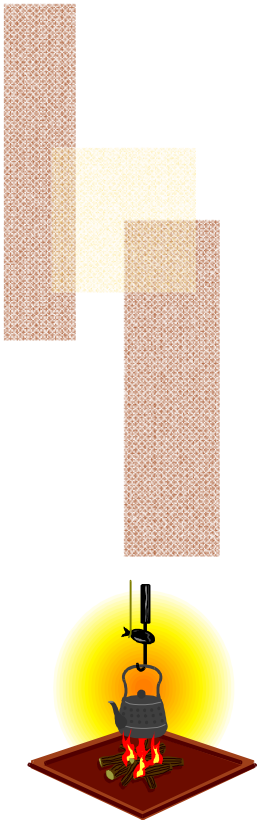
「すまぬが、私のわらじの紐を結んでたもれ」

母親は、きつとここで厳しく訓戒してくださるのであると、大いに期待して見守っていた。馬之助の方は「今日に限って妙なことをおっしゃる」と思ったが、とにかく言いつけられた通り良寛の前にしゃがんでわらじの紐を結び始めた。

すると、馬之助の首すじに、冷たいものがポトリと落ちた。馬之助がびっくりして見上げると、良寛が目に涙を溜め黙って馬之助を見下ろしている。馬之助はそこで、一瞬のうちにすべてを悟ったのである。

法を説くでもなく、道理を語って聞かせるでもなく、無言の良寛の慈愛が、胸のそこにズシンと響いたのだ。馬之助の放蕩は翌日からピタリと止んだ。

良寛と接した者は皆、なごやかな気持ちになるといいう。良寛も見事なら、その涙の意味を瞬時に受け止めた放蕩者の馬之助もまた見事という他はない。



### ◆◇編集後記◇◆

今回、昨年入社した新入社員の皆さんにも記事を書かせてもらいました。各人の様々な思いが感じられました。季節は早いもので、もうすぐ秋。食欲の秋、スポーツの秋といいますが、皆さんも有意義な秋を楽しんでほしいと思います。



編集部